

アトリエ 琉游舎 だより 28号

2018年6月6日発行

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

入梅・塩梅・出梅

- 暦の上では今年の入梅は6月11日。気象庁の梅雨入り宣言はもう出る頃ですね。
- 梅の実がみのる頃。今年も梅干しや、梅ジュース、梅酒を漬けてみます。今頃仕込みをしておけば、夏には疲労回復おいしい梅ジュースが飲めます。梅干しもクエン酸たっぷり疲労回復・血流改善にぴったりです。塩分が心配な方も夏は塩分補給が重要です。熱中症対策にいかがですか？要は塩梅ですね。
- 梅雨になると梅雨明けが待ち遠しくなります。今年の出梅はいつごろでしょうか？
- 梅雨の季節はじめじめと蒸し暑くあまり好まれる季節ではないようです。でも夏や秋の豊かな収穫の為にも、梅雨の湿度と気温は生き物にとっては恵みの季節でもあるのです。
- この梅雨の季節を自然のサイクルが与えてくれるちょうどいい塩梅とを考えてみたらどうでしょう。すると生きものの中の末席に連なる私たち人間にも、この季節はちょうどいい塩梅なのかもしれません。
- 自然の移り変わりに合わせて過ごしていくことが、琉游舎の日常。昨日とは変わらないけれど半月前とは少し変わっている、3ヶ月前とは大分変わって、半年前とは全く様相の違う自然。でも1年前とはちっとも変わらない。そんな自然とともに、琉游舎は一年中いつもと変わらない毎日を塩梅よく過ごしています。

7月の第一日曜日の写経会
は第2日曜日に変更します

詩話会
6月9日(土)
13時半から

読書会
6月12日(火)
13時半から

映画会
毎週木曜日
13時半から

7月3日(火)
7月8日(日) **写経会**
13時半から

6/14 木	13時半	緑園の天使 (128分)	エリザベス・テイラー主演。デビュー当初の彼女が颯爽と馬を駆り、馬場を駆け抜ける。馬好きの娘が暴れ馬を育てて、最後には騎手となり大レースに臨みます。
6/21 木	13時半	九ちゃんのでっかい夢 (84分)	山田洋次監督、坂本九主演。人気絶頂期の九ちゃん主演のスラップスティックコメディ。歌、ダンス、ものまねなど稀代のエンターテイナー九ちゃんの魅力溢れる一本。
6/28 木	13時半	山河遙かなり (105分)	実話を元に、アメリカ占領下のドイツでナチの収容所から救い出された戦争孤児がGIによって明るく生まれ変わる姿を描くアメリカ映画。
7/5 木	13時半	いいかげん馬鹿 (86分)	山田洋二監督、ハナ肇、岩下志麻主演。小さな島の孤児、大ぼら吹き安吉が巻き起こす故郷を思えばこその大騒動。ペースス込む純情喜劇。
7/12 木	13時半	ハムレット (153分)	ローレンス・オリヴィエ主演、1948年アカデミー賞作品賞・男優賞などの受賞作品。シェークスピア文学の最高峰「ハムレット」の映画化。
7/19 木	13時半	運が良けりゃ (91分)	山田洋二監督、ハナ肇、倍賞千恵子主演。天明の大飢饉に見舞われて貧しかった長屋住まいの人々の四季織り交ぜ綴る落語長屋の人情喜劇。

僧侶の一日は朝のお勤めから始まります。私も5時半から毎日朝勤（ちょうごん）をしています。他の法要と同様、朝勤にも一連の決まった儀式があります。さて、この朝勤は何のためにやっているのでしょうか。お勤めは仏道修行に勤め励むことそのものだということになっています。もちろんそれは否定しませんが、そこに座って一人で儀式を行い口をパクパクしてお経を唱えているだけでそれが修行に励んでいます、と言っていいものかどうか。

朝勤は「行い」への挨拶とウォーミングアップだと私は考えています。お釈迦様への朝のご挨拶とこれから一日をいつも通り当たり前前に過ごすための心と体の暖機運転です。いわば朝のラジオ体操みたいなもの。本当のお勤めは、そのあとにやって来る日常です。日常はいつも通りやってきていつも通り過ぎていくものでは決してありません。何も起こらないのも日常、何か突然起こるのも日常。何があろうともそれは縁起（よりにておこるもの）と観て、心安らかに前へ歩むことが「行い」です。仏教は実践の宗教です。実践の舞台は日々の生活の中にしかありません。

「ためになること（仏の教え）を数多く語るにしても、それを実行しないならば、その人は怠っているのである。・・・牛飼いが他人の牛を数えているように。彼は修行者の部類に入らない」注1 原始仏典「ダンマパダ」の中のお釈迦様の言葉です。厳しい言葉です。ただ座ってお経を唱えているだけの人は修行者ではないとはっきり言っています。お釈迦様の生きている時から、オウム返しに教えを語っているだけの弟子たちが沢山いたということでしょう。他人の牛をいくら数え上げてでもそれは決して自分のものにはなりません。その人は相手を羨んでいるのか、暇つぶしに数えているのでしょうか。下手をすると牛泥棒に間違えられてしまうかもしれないのです。同じように仏さまの教えを語っただけではその教えは自分のものにはならないのです。実践無き語りは騙りに等しい行為でしょう。お釈迦様の教えは「教えを自ら実行して初めてお釈迦様と一緒に方向に向かって歩み始めることができる」ということです。数多の宗教は信じることによって救われるという救済の宗教だと思うのですが、仏教は信じるだけでは救われません。実践することつまり救済の道（安らぎのところ）を歩み始めたところで、初めて救済への道が開かれてくるのです。そしてその救済はお釈迦様から与えられるものではなく、自らの実践によって日々つかみ取るものなのです。

「ダンマパダ」の160偈に「自己こそが自分の主（あるじ）である。他人がどうして自分の主であろうか？ 自己をよくととのえたならば、得難き主を得る。」注2という言葉があります。この言葉も厳しいですね。自分の主は自分しかいないと言っています。お釈迦様が教えと実践の方法を導いてはくれるが、同じ道を歩めるかどうかはすべて私たち自身にかかっているのです。すべて自己責任だと言われているような気がします。自分の眼で観て自分の足で歩かないといけないのです。できれば自動運転の車に乗って救済の場に辿り着きたいと願うのがわたしたち人間なのに、これではお釈迦様の後を辿って行ってよいのか、躊躇してしまう人も出てくるでしょう。

私はここまで二つの言葉を例に引き、仏教の教えは厳しいものだと言ってきました。でもお釈迦様はできないことを求めてはいないようです。二つをまとめると「自身の眼をしっかりと見ひらいて毎日を生きていきなさい。そのために自身を信じなさい、そして自身を信じるに足る自分になるために、毎日をよりよく過ごしなさい、それが安らぎへの道を歩む行いです」と語っているのです。その実現は難しくても、言っていることは明快です。結果を求めているのではなく実践を求めているのです。そして他人に便乗するのではなく、自分の足で歩きなさいと語っているのです。毎日をお釈迦様の教えの通りに過ごせたかどうかの結果に一喜一憂したり、結果の検証をする必要もありません。出来ることも出来ないこともある、それが自分というものだという自覚があれば、それでいいのです。その自覚をもって毎日を過ごすことが、毎日を豊かに楽しく暮らすことだと私は信じています。自分の行動はすべて自分がもたらしたものですからその悪果も善果もすべて自分のもの。その両方の果実を日々享受できることが私は生きる楽しみだと思っています。

となると毎日の生活を実際は怠けていても、精進していますと自分を納得させれば、それで済んでしまいますね。これが仏教の教えの危険な側面です。他の宗教ではインチキは即座に神から罰せられてしまいます。でも罰せられるからやらないとか、頑張ろうという考えは仏教にはなじみません。怠けたり、インチキをするのが自分というものだという自覚こそが大切なのです。「凡夫の自覚」ということだと思いますが、宗教用語として用いるとあちこちから使い方が間違っているとわれそうなのでここまでにします。

凡人が凡事を凡庸に勤める平凡な毎日。
これが朝勤後の私の日常のお勤めです。
それではまた次号でお会いしましょう。(出琉)

琉游舎：戸井 出琉・恭子

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17 コリーナ矢板C-850

Mail:toi101izuru@outlook.jp

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/